

# 出資法人等経営状況報告書

## 1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	平成 25 年 3 月 18 日	担当部署	総務管理部 行政改革推進課
-------	------------------	------	---------------

※以下は平成 24 年 12 月 31 日現在の内容です。

## 2 法人等の概要

法人等名称	リフレ上越山里振興株式会社				
代表者名	代表取締役社長 田中 弘邦				
	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤				
	<input type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市派遣 <input type="checkbox"/> 市兼務 <input checked="" type="checkbox"/> その他				
所在地	新潟県上越市大字皆口 601 番地				
設立年月日	平成 10 年 12 月 18 日				
設立目的	食と健康をテーマとしたリフレッシュビレッジ事業を通して、市民の財産ともいえる上越市西部中山間地の緑豊かな自然を活用し、地域農林水産業の活性化を図るため。				
資本金	120,000 千円	市出資額	105,300 千円	市出資割合	87.8%

## 3 組織

(単位：人)

		理事・ 取締役	監事・ 監査役	計	内訳			
					プロパー	市派遣	市兼務	その他
役員	常勤	1		1	1			
	非常勤	12	1	13			1	12
	計	13	1	14	1		1	12
職員	正職員			11	11			
	臨時職員			17	17			
	パート職員等							
	計			28	28			

## 4 主な事業

(1) くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷、ゆったりの家の管理運営
(2) 文化振興に関する事業
(3) 観光広告及び宣伝に関する事業
(4)
(5)
(6)
(7)

## 5 事業実績（概要）

○平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日までの第 15 期事業実績

- ・第 15 期の営業収益（売上高）は、前期営業収益（売上高）との比較で、リフレッシュビレッジ施設全体として 2,456 千円の減（1.3%の減）の 181,444 千円となりました。ヨーデル金谷においては、レストラン利用者は減少したものの、ブライダル部門に積極的に取り組んだ結果、売上高が増加しましたが、くわどり湯ったり村においては、宿泊、日帰り温泉の利用者数の減少に加え、レストラン部門・売店部門の売上高の落ち込みもあり、全体として営業収益（売上高）が減少しました。
- ・営業費用は、くわどり湯ったり村においては、経営安定化に向けて、入場者が比較的少ない毎週木曜日を休館日とする取組を試行的に実施するなどにより、経費縮減を図ってきましたが、灯油代などの燃料費が増加したことにより、前期営業費用との比較で 3,531 千円の増（1.8%の増）の 198,557 千円となりました。

### 【売上高・営業利益実績】

施設名	区分	第 13 期 (H22. 1～H22. 12)	第 14 期 (H23. 1～H23. 12)	第 15 期 (H24. 1～H24. 12)
くわどり湯ったり村	売上高	131,483 千円	127,685 千円	122,590 千円
	営業利益	△13,876 千円	△17,662 千円	△20,809 千円
ヨーデル金谷	売上高	45,777 千円	56,215 千円	58,854 千円
	営業利益	△5,343 千円	6,536 千円	3,696 千円

- ・また、今期は、過年度の会計処理を修正した結果、特別損失として△36,745 千円を計上し、当期純利益は△53,929 千円となり、第 15 期末の欠損金は△184,658 千円となりました。
- ・各施設の入場者数は減少し、リフレッシュビレッジ施設全体としては、前期との比較で 7,484 人の減（8.2%の減）の 83,983 人となりました。

### 【利用人数実績】

施設名	区分	第 13 期 (H22. 1～H22. 12)	第 14 期 (H23. 1～H23. 12)	第 15 期 (H24. 1～H24. 12)
くわどり湯ったり村 (うち宿泊者数)	目標	99,500 人	74,000 人	74,000 人
	実績	73,909 人 (5,502 人)	64,251 人 (4,731 人)	58,197 人 (4,123 人)
ヨーデル金谷	目標	41,000 人	34,000 人	34,000 人
	実績	25,572 人	26,104 人	25,007 人
ゆったりの家	目標	1,400 人	1,000 人	1,100 人
	実績	1,212 人	1,112 人	779 人
合 計	目標	141,900 人	109,000 人	109,100 人
	実績	100,693 人	91,467 人	83,983 人

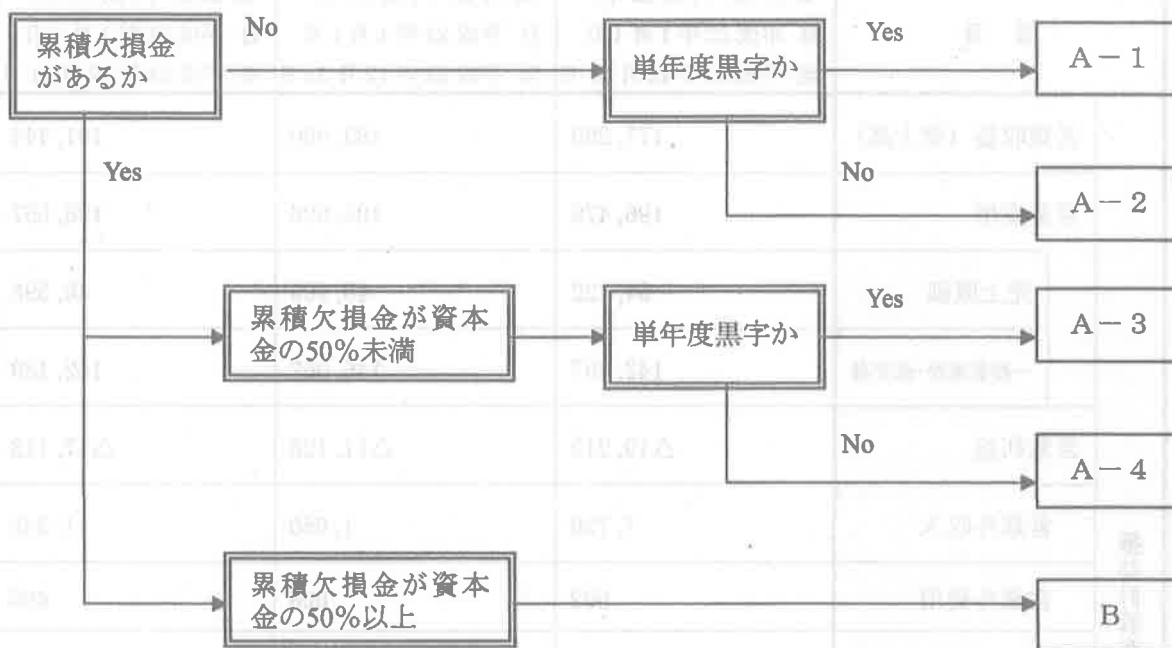
## 6 財務状況

(単位:千円)

項 目		第13期(平成22年) 自平成22年1月1日 至平成22年12月31日	第14期(平成23年) 自平成23年1月1日 至平成23年12月31日	第15期(平成24年) 自平成24年1月1日 至平成24年12月31日	備考
損益計算書	営業収益(売上高)	177,260	183,900	181,444	
	営業費用	196,479	195,026	198,557	
	売上原価	54,122	48,959	46,398	
	一般管理費・販売費	142,357	146,067	152,159	
	営業利益	△19,219	△11,126	△17,113	
	営業外収入	7,730	1,660	1,342	
	営業外費用	562	608	695	
	経常利益	△12,051	△10,074	△16,466	
	特別利益	0	12	0	
	特別損失	0	0	36,745	
	税引前当期利益	△12,051	△10,062	△53,211	
	法人税等	925	681	718	
	当期純利益	△12,976	△10,743	△53,929	
項 目		平成22年12月31日現在	平成23年12月31日現在	平成24年12月31日現在	備考
貸借対照表	資 産	73,894	74,609	34,351	
	負 債	73,879	85,337	99,009	
	純資産	15	△10,728	△64,658	
	資本金	120,000	120,000	120,000	
	剰余金・欠損金	△119,985	△130,728	△184,658	
その他	0	0	0		

## 7 経営状況の予備的診断

予備的診断フロー



評価	B
----	---

評価基準		備考
A-1	累積欠損金がなく、単年度黒字の場合	引き続き経営努力を行う。
A-2	累積欠損金がなく、単年度赤字の場合	複数年の経過を注視しながら引き続き経営努力を行う。
A-3	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度黒字の場合	経営改善の努力を要する。
A-4	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度赤字の場合	経営改善の一層の努力を要する。
B	累積欠損金が資本金の50%以上の場合	事業の見直し等も含めた抜本的な経営改善を要する。

※ この評価に関連する特殊な事情又は要因など特記すべき事項

・6期連続の単年度赤字を計上。第14期（H23年）より累積欠損金が資本金を上回り、純資産がマイナスとなる債務超過の状態が続いている。

※資本金に対する累積欠損金の割合

第14期（H23年）：108.9% 第15期（H24年）：153.9%

## 8 市の関与の状況

### (1) 市の委託額

(単位：千円)

内訳		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	備考
①	指定管理料	28,738	35,502	35,373	くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷、ゆったりの家
②					
③					
④					
⑤					
計		28,738	35,502	35,373	

### (2) 市の財政援助額

(単位：千円)

内訳		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	備考
①	補助金（助成金）				
②	貸付金				
③	損失補償	40,000	40,000	39,999	借入限度額 40,000 千円
④	債務保証				
⑤	その他（補填金）	1,504	1,582	1,510	シニアパスポート減免補填金（平成 24 年度は見込額）
計		41,504	41,582	41,509	

## 9 今後の経営計画等

### (1) 次期事業計画

・営業形態・営業時間・人員等の様々な角度から更なる検証をかけ、積極的な改革と経費縮減を図ることを目標として、次の取組・事業を強化する。

#### ① くわどり湯ったり村

- ・更なる経費節減に向け、損失の増える冬期間営業の効率化や従業員雇用体制の変更を行う。
- ・売上増強に向け、顧客ニーズに即した各種プランを創設するとともに、地域との連携による営業活動を強化する。

#### ② ヨーデル金谷

- ・地元お披露目会場としての地位の確立及び自社ブライダル獲得を図る。
- ・収益性の高い店舗運営を目指し、朝食参入を検討する。

### (2) 中長期経営計画【H25.1.8 付けの「経営改善計画書（概要版）」より抜粋】

・短期的には、平成 25 年 12 月期に単年度黒字化を実現し、中長期的には、債務超過の状態を解消する。

#### ① くわどり湯ったり村に冬期休館期間の設定（1 月 16 日～3 月 15 日の休館）

#### ② 従業員の雇用体制の変更（本部従業員を湯ったり村のシフトへ組込み）

#### ③ 冬期休館に集中した営業活動の実施 など



# 経営報告書

平成24年1月1日～平成24年12月31日

## 経営の要旨

経営の要旨

本報告書は、当社の経営状況を、平成24年1月1日から平成24年12月31日までの期間について、経営の要旨を、経営者及び株主の利益のために、簡明扼要かつ公平かつ客観的に説明することを目的として、作成したものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。

## 第15期報告書

経営報告書の作成に当たっての留意事項

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

本報告書は、当社の経営状況を、平成24年1月1日から平成24年12月31日までの期間について、経営の要旨を、経営者及び株主の利益のために、簡明扼要かつ公平かつ客観的に説明することを目的として、作成したものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。

### 事業報告書

### 貸借対照表

### 損益計算書

### 株主資本等変動計算書

### 個別注記表

### 監査報告書

本報告書は、当社の経営状況を、平成24年1月1日から平成24年12月31日までの期間について、経営の要旨を、経営者及び株主の利益のために、簡明扼要かつ公平かつ客観的に説明することを目的として、作成したものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。本報告書は、経営者の責任において作成されたものである。

リフレ上越山里振興株式会社

平成24年12月31日	平成24年12月31日	平成24年12月31日	平成24年12月31日
808,700,300	806,981,287	808,700,300	806,981,287
1,400,000,000	1,400,000,000	1,400,000,000	1,400,000,000

# 第 15 期営業報告書

(平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日まで)

## 営業の概況

### ◆営業の経過

施設開業以来 14 年目となる本期は、景気低迷や施設経年劣化による集客力低下と厳しい環境下となりましたが、昨期に増し「積極的な改革と削減強化」を目標に掲げ展開して参る営業年となりました。これによりヨーデル金谷は 2 期連続で黒字化を果たすことができました。くわどり湯ったり村の改革・削減も前進し又、開業から施設切り離し以降湯ったり村が抱えてきた数字の整理も行い、経営体質の改善化を進めて参りました。しかしながら総合的には結果が追いつかずに期末となり、誠に遺憾ながら営業損失の計上となりました。

### 当期の施設別営業概況は次のとおりです

#### ◆くわどり湯ったり村

経営安定化に向け 1. 「休館日」の新設。「月一休館」から「週一休館」(7・8・12 月除く毎木曜※暫定試行) 移行により各種経費削減及び、各部署横断会議を開催、意識共有を図る。2. 「給与体系」の再構築。「変形労働時間制」見直しと、モチベーションアップのための個々の給与体系の再構築。3. 「管理職社員の増員」。経営参画する管理職を増員、それぞれの立場からイベント・営業プランの創出増強を図る。4. 「顧客満足度部門の強化」。館内のアンケート集約や、お礼状管理等要望やクレームにもスピーディーに対処、顧客満足度アップを図る。以上を施策の柱として実働は 4 月からとなりましたが、1. により売上原価・給与手当・施設維持管理・水道光熱費・リネン費等の「削減費用 685 万円」2. により「削減費用 302 万円」となり、3. 4. の業務効果により昨年対比、宿泊売上 101% (休館入換算) 日帰宴会売上 114.6% と前年売上増となりました。又この削減効果は 9 月以降しっかりと損益に反映しグリーンシーズンでは利益計上の体質になりました。しかしながら例年抱える「冬期間営業の損失」又「日帰り温泉の入店減少」を抑える事が出来ずこれに連動する、レストラン営業・売店営業の売上減少等により誠に遺憾ながら営業損失の計上となりました。

#### ◆ヨーデル金谷

2 期連続の単年度黒字達成となりました。

本年は売上に影響するような際立った災害もなく、人員・売上・店舗運営において「安定」した一年であったと思います。前年の反省を踏まえ若干の人員増 109.9% (195 万円増) にした結果、法定福利費が 157% (131 万円増) になった事と、保険料が 215% (85 万円増) になった事、食材価格が上昇傾向のまま高止まりであった事などが利益率低下の一因となりました。

ただ、人件費・保険以外の販管費全般の科目においては、22・23・24 年のそれぞれの昨対増減額が 10 万円前後で推移しており、ここ数年は安定した店舗運営がなされるようになっております。また本年はブライダルだけでなく、披露宴の 2 次会や海外・県外の挙式組 (または挙式しない) 等から地元お披露目の宴会場として利用が増加しており 時流を背景に新たなビジネスチャンス創出の可能性も垣間見えました。しかしながら安定局面であることは「新たな取組みが必要な時期」でもあり、ブライダルと一般営業のバランスを取りながら、新ビジョンを創出し、それぞれの分野でヨーデル金谷ブランドを確立していくことが課題といえます。

	くわどり湯ったり村	ヨーデル金谷
売上高	122,589,666	58,853,898
営業利益	▲ 20,809,229	3,695,996



# 事業の成績及び財産の状況の推移

区 分	第 14 期	第 15 期
	平成23年 1月 1日から 平成23年12月31日まで	平成24年 1月 1日から 平成24年12月31日まで
売 上 高	183,899,787 円	181,443,564 円
経 常 利 益	△10,073,572 円	△16,465,809 円
当 期 利 益	△10,743,072 円	△53,929,086 円
1株当たり当期利益	△4,476 円 28 銭	△22,470 円 45 銭
総 資 産	74,608,882 円	34,351,454 円
純 資 産	△10,728,454 円	△64,657,540 円

平成23年	平成24年	注 文
183,899,787	181,443,564	売上高
△10,073,572	△16,465,809	経常利益
△10,743,072	△53,929,086	当期利益
△4,476	△22,470	1株当たり当期利益
74,608,882	34,351,454	総資産
△10,728,454	△64,657,540	純資産

## 会社の概要

### (1) 主要な事業内容

・ 上越市の所有若しくは管理する不動産及び温泉保養施設、農林水産加工施設、地域食材供給施設の管理運営に関する事業。
・ 飲食店の経営
・ 食料品、酒類、清涼飲料、観光土産品、たばこ、医薬品、新聞、書籍及び日用品雑貨の販売
・ 文化振興に関する事業

### (2) 株式の状況

・ 会社が発行する株式の総数	2,400株
・ 発行済み株式総数	2,400株
・ 当期末株主数	131人
・ 大株主（平成24年12月31日現在）	

株主名	持ち株数	持ち株比率
上越市	2,106	87.8%
えちご上越農業協同組合	100	4.2%
くびき野森林組合	20	0.8%
頸城自動車株式会社	20	0.8%
協同組合ウッドワーク	10	0.4%
上越市漁業協同組合	10	0.4%
桑取川内水面漁業協同組合	10	0.4%

### (3) 事業所の状況

- ・ くわどり湯ったり村 上越市大字皆口601番地
- ・ ヨーデル金谷 上越市大字大貫1047番地3
- ・ 本社経理事務所 上越市大字大貫1049番地2

### (4) 従業員の状況（平成24年12月31日現在）

- ・ 男性 13名（内 臨時 5名）
- ・ 女性 15名（内 臨時 12名）
- ・ 合計 28名（内 臨時 17名）

### (5) 主要な借入先

えちご上越農業協同組合 当座貸越

平成24年12月31日現在、40,000,000円

## (6) 取締役及び監査役

地 位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役	田中 弘邦	上越商工会議所 会頭
副 社 長	大竹 和夫	頸城自動車株式会社 代表取締役
取 締 役	野口 和広	上越市 副市長
取 締 役	米山 均	協同組合ウッドワーク 理事長
取 締 役	田中 義輝	上越市漁業協同組合 代表理事組合長
取 締 役	平井 民夫	桑取川内水面漁業協同組合 組合長
取 締 役	荻野周次郎	上越観光コンベンション協会 顧問
取 締 役	佐藤 一男	桑取地区町内会長協議会 会長
取 締 役	浅野 正也	金谷地区町内会長協議会 会長
取 締 役	伊藤 正一	地域代表
取 締 役	曾我 文隆	地域代表
取 締 役	笹原 智子	地域代表
取 締 役	猪爪 一清	リフレ上越山里振興株式会社 統括支配人
監 査 役	沼波 貞夫	谷浜地区 会社役員







# 損 益 計 算 書

自 平成 24 年 1 月 1 日 至 平成 24 年 12 月 31 日

リフレ上越山里振興株式会社

単位： 円

科 目	金 額	額
【売上高 売上高	181,443,564	181,443,564
【売上原価 期首商品棚卸高 当期商品仕入高 期末商品棚卸高	1,831,487 46,002,671 △1,436,459	46,397,699
売上総利益		135,045,865
【販売費及び一般管理費】		152,159,098
営業利益		△17,113,233
【営業外収益 受取利息 雑収入	417 1,342,042	1,342,459
【営業外費用 支払利息 雑損失	592,209 102,826	695,035
経常利益		△16,465,809
【特別損失 前期損益修正損	36,745,077	36,745,077
税引前当期純利益		△53,210,886
法人税及び住民税額		718,200
当期純利益		△53,929,086

# 販売費及び一般管理費明細書

自平成24年1月1日 至平成24年12月31日

リフレ上越山里振興株式会社

単位：円

科 目	金	額
給与手当	42,524,980	
臨時雇入費	25,278,907	
法定福利費	10,842,302	
福利厚生費	232,633	
消耗品費	3,581,608	
事務用品費	1,329,019	
賃借料	2,967,040	
保険料	4,133,300	
修繕費	687,928	
租税公課	795,889	
通信費	1,328,372	
水道光熱費	16,074,912	
支払手数料	461,795	
荷造発送費	86,129	
広告宣伝費	976,210	
接待交際費	116,926	
施設維持管理費	13,102,270	
リネン費	3,128,747	
燃料費	22,869,453	
車両掛費	614,434	
新聞図書費	243,379	
諸会費	181,800	
クリーニング費	150,232	
会議費	64,543	
雑費	386,290	
合 計		152,159,098



# 株主資本等変動計算書

自平成24年1月1日 至平成24年12月31日

リフレ上越山里振興株式会社

単位：円

科 目	変 動 事 由	金 額
【株主資本 【資本金】	当期首残高及び当期末残高	120,000,000
【利益剰余金 (その他利益剰余金 繰越利益剰余金)	当期首残高 当期変動額 当期純利益 当期末残高	△130,728,454 △53,929,086 △184,657,540
利益剰余金合計	当期首残高 当期変動額 当期末残高	△130,728,454 △53,929,086 △184,657,540
株主資本合計	当期首残高 当期変動額 当期末残高	△10,728,454 △53,929,086 △64,657,540
純資産合計	当期首残高 当期変動額 当期末残高	△10,728,454 △53,929,086 △64,657,540

# 第16期事業計画

リフレ上越山里振興株式会社

前期までに取り組んできた「営業形態・営業時間・人員等様々な角度から更なる検証をかけ積極的な改革と削減を目指す」という目標の結論を出す営業年となります。

利益計上、経営安定化を計ることを目標と致すものです。

施設別の事業計画は以下の通りです

## ◆くわどり湯ったり村

### (1) 更なる経費削減に向けた取組

- ① 損失の増える冬期間営業の効率化
- ② 従業員雇用体制の更なる変更によるマルチタスク化

### (2) 売上増強に向けた取組

#### ① 顧客ニーズに即した各種プランの創設

農業・里山・古民家体験プログラムと連携した宿泊プラン等の創設・販売  
歌謡、演芸、カラオケ等と食事温泉をセットにした日帰り・宿泊プラン販売  
老人会プラン、ゲートボールパックなど温浴と食事、送迎をセットにした日  
帰りプラン等の創設・販売

#### ② 営業活動の強化

獲得目標を含めた一丸となった積極的な営業活動の展開

経営委員会、桑取フレッシュ生産組合など地域との連携による誘客の推進

## ◆ヨーデル金谷

昨年末にかけて一時停滞していた新規店の出店が相次ぎ再び競争が増加傾向にあります。

それを踏まえ来期は店舗を再検証し商圏内でのヨーデル金谷の位置づけを確固たるものにするべく新たな取組みが必要と考えております。具体的に以下について取組みます。

◎施策の柱として◆①海外・県外挙式組（挙式しない）の増加にともなう「地元お披露目会場」としての地位確立及び自社ブライダルの獲得。◆②結婚式2次会のさらなる取り込み（若者に支持される企画・会場）◆③朝食参入を真剣に検討。実験的に朝食営業を行い夜と朝の売上を比較検証し、より収益性の高い店舗運営を模索する。必要であれば営業時間変更も検討する。

◎店舗運営面として◆④信用の回復。資金繰り悪化に伴い仕入業者等から新商品等の企画提案が皆無になり売上増の機会損失を招く一因に、これはヨーデル金谷単独で解決できる問題ではないが、現場でも出来る限りの努力をして信用回復の一助を担う。◆⑤今期は人員の入替が予測されるので有益なリクルーティングを実施し人員の安定確保を目指す。◆⑥料理&サービスの技術向上。リストラや派遣パートの導入で専門知識・技術を持ったスタッフが少なくなりスキルやマインドの低下がみられるので改善すること。